

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立吉野小学校の結果概要

平均正答率は、国語が71ポイントで全国平均より10.1ポイント高く、算数が66ポイントで全国平均より9.6ポイント高かった。国語の内容別、算数の領域別に見ても、どの内容、領域とも全国平均を上回っており、全国と比較して、特に課題となる内容や領域は見当たらなかった。児童質問紙では、ほとんどの項目で、肯定的な回答が全国平均を上回った。授業に関する項目でも、求められている資質・能力を育成するための授業改善の成果が見られる結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】平均正答率は全国より10.1ポイント高く、中央値は全国より1ポイント高かった。四分位区分の第1四分位が全国と比較して2ポイント、第3区分位が1ポイントそれぞれ高く全体的に区分の位置が高い上、第1四分位と第3区分位の差は全国より1問少ないことから、学力のばらつき具合が少ないと言える。また、学習指導要領の内容別に見ると、情報の扱い方に関する事項で、全国より14.4ポイント高かった。また、すべての領域で全国平均を上回ったが、特に、一昨年度まで研究してきた「読むこと」の領域では14.9ポイント高かった。叙述をもとに深く読む学習を進めてきたこと等の成果と考える。

【算数】平均正答率は全国より9.6ポイント高く、中央値は全国より3ポイント高かった。四分位区分の第1四分位が全国と比較して2ポイント、第3区分位が1ポイント、それぞれ高く全体的に区分の位置が高い上、第1四分位と第3区分位の差は全国より1問少ないことから、学力のばらつき具合が少ないと言える。すべての領域で、全国平均を上回ったが、数と計算、図形、データの活用では全国を10ポイント前後上回った。昨年度から算数科で「個別最適な学びと協働的な学び」をテーマとして個別の自力解決の場の充実を工夫してきた成果と考える。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思うか」に最も肯定的に回答した児童の割合は69.2ポイントで、全国平均より25.6ポイント高かった。「人が困っているときは進んで助けているか」に最も肯定的に回答した児童の割合は66.2ポイントで、全国平均より18.9ポイント高かった。「学校の勉強について親や家族と話すか」は全国より22.5ポイント高く、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」は全国より22ポイント高かった。本校で継続的に取り組んでいる縦割り班活動、人権教育、総合的な学習や、地域・家庭の支援が、相乗的に子どものウェルビーイングを高めていると考える。一方、いじめや友人関係についての肯定的な回答の割合は、全国平均より低かった。

今後の取組（アクションプラン）

これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を身に付けさせるためにも、多様な子どもたちに対応するためにも、これまで進めてきた「個別最適な学びと協働的な学び」の視点を重視した「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を一層進めていく。さらに、本年度の研究である「教科の見方・考え方を働かせ」深く考え追究する学習を通して、「生きて働く知識・技能の取得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」に取り組む。

また、多様な子どもたちを包摂する特別活動や人権教育を充実させ、地域・家庭との連携を図りながら、学力の土台となるウェルビーイングをさらに高める。